（平成23年５月試験研究業務月報）

指　導

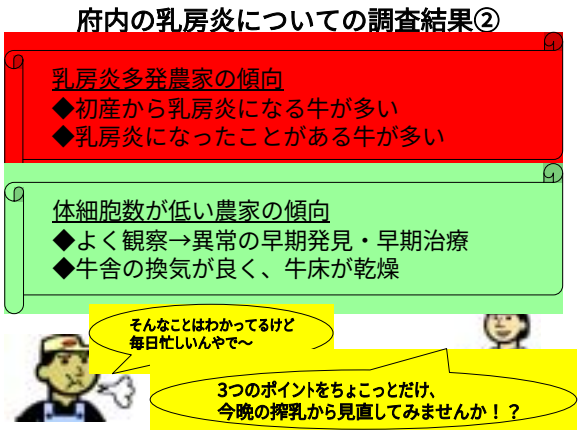
酪農家による酪農家のための研修会

－畜産センター出前語らい－

５月26日に開催された中丹酪農ヘルパー利用組合研修会は、酪農家２名が講師となり、「我が家の搾乳衛生の取組」、「殺菌初乳を用いた疾病対策」について発表しました。当センター職員は、このテーマに関連した「搾乳衛生のポイントと初乳殺菌の重要性」について報告し、農家の発表に技術面から補足説明を付け加えました。

参加した酪農家は、なかなか聞くことができない他の酪農家の話しに熱心に耳を傾け、早速取り組もうという意欲が伺えました。

普段特に気をつけていることを中心にした酪農家の発表



早速、夕方の搾乳から実践してもらえるよう簡単なポイントを畜産センターから提案

畜 産 セ ン タ ー

（平成23年５月試験研究業務月報）
試験研究課題：ハーブを利用した採卵養鶏におけるワクモ防除方法の確立

研　究

天然素材の「ハーブ」を利用したワクモ防除の取組み

ワクモはダニの一種で、鶏に寄生し「かゆみ」などのストレスを与え、産卵率などの生産性を低下させます。ワクモは、化学薬剤（殺虫剤）を使用して防除するのが一般的ですが、薬剤抵抗性が上がり、防除方法は確立していません。

当センターでは、薬剤抵抗性がなく、安全性の高い天然素材「ハーブ」を利用した防除方法の研究を始めました。

栽培中のハーブ（タイム（手前）とオレガノ）

顕微鏡で見たワクモ(体長約１㎜)

畜産センター

（平成23年５月試験研究業務月報）

タスクチーム活動テーマ：採卵鶏への効率的な飼料米供給体制の構築と省力的給与方法の提案

情　報

飼料米利用拡大に向け、効率的な保存･利用技術を探る

－タスクチームで実践農家を現地調査－

当センターは、農林水産技術センター、農業改良普及センターとタスクチームをつくり、飼料米が、耕種農家で生産され、畜産農家で利用されるまでの一連の省力的で低コストな技術体系を提案することとしています。

今回､飼料米の利用拡大に向けた課題を探るため､飼料米の利用を実践している舞鶴市の養鶏農家を現地調査したところ、飼料米の効率的な保存方法や通常給与している飼料との混合作業などが解決すべき課題であることが明らかとなりました。今後は、それらの課題解決に向け取組みを進めることとしています。

養鶏農家から各専門分野の技術者が聞き取り

目指すのは中山間地の水田にも適用できる技術体系

※タスクチーム・・・試験研究と技術普及が連携して地域の重要課題を解決するチーム

畜 産 セ ン タ ー

（平成23年５月試験研究業務月報）

情　報

和牛と乳牛の改良で農家を支援

－精液や受精卵供給を通じて改良の成果を農家へ－

当センターで飼育している４頭の和牛の種雄牛は、家畜改良増殖法に基づく国の種畜検査に合格しました。また、乳牛の雌牛５頭は、日本ホルスタイン登録協会の審査を受け、体格や乳牛らしさに富むとの高い評価を受けました。

センターでは、引き続きけい養牛の改良をすすめ、和牛精液と乳牛受精卵の供給及び育成牛の譲渡を通じて農家の牛群改良と経営向上を支援していきます。

国の種畜検査員が詳細に検査

乳器・乳房が高い評価を受けた「オレンジ」号

畜産センター

（平成23年５月試験研究業務月報）

情　報

待ち遠しかった牧草の収穫・貯蔵が始まる

－畜産センターでは早くも冬支度－

畜産センターでは５月４日に、碇高原牧場では17日に、昨年より約１週間遅れて牧草の刈り取りを始めました。この冬の大雪や春先の低温により牧草の生育が遅れ、碇高原牧場での収量は昨年の約半分の250トン程度しかありませんでした。

牧草は、密封保管し、サイレージ（牧草の漬け物）として、秋頃から来春まで牛に給与します。

牧草をフィルムで巻いて密封

１番草刈り取り作業（碇高原牧場）

畜 産 セ ン タ ー

（平成23年５月試験研究業務月報）

情　報

めん羊たちがスーパークールビズ

碇高原牧場では、５月６日に10頭の羊の毛刈りを行いました。

毛刈りは、冬の間に伸びた毛を刈り取ることで、暑い時期の体力の低下と皮膚病などを防ぐために行います。

羊たちは、あっという間に衣替えを済ませて、すっかり涼しげになりました。

気持ちよさそうに毛を刈られる羊

見学者も飛び入りで参加

畜 産 セ ン タ ー （ 碇 高 原 牧 場 ）